



次世代先端産業という挑戦と既存産業の完全な転換

令和7年3月28日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

世界におけるグローバリズムと新規技術システムにおける産業の出現は、既存産業を完全に崩壊させるものであり、それらは市場への理解と分析において、現実を完全に捕捉しなくてはならない。それが未来を与える唯一の選択であるからである。

これらは必達の要求として産業は、必ずこの時代先端性への到達を求められるものであり、これら先端性が MBA システムにおいて自己の考査を経て、最も優れた現実を有することにおいて、それらを自己とする必要性は必ず存在するのである。

これらは後発において、これら現実を求めることはできるはずであり、それらはこれら先端性という現実への理解において実現できるはずであると考ええる。

企業は企業製品と企業運営システムにおいて、これら現実を行う必要性を有するのである。それらは経営判断において自己企業の飛躍的な転換においてそれら現実を実現することができると思う。

他方において理解を求められるのは、既存現実が完全に通用しないことなのである。これらは製品における明確な新しい判断と基準においてそれらを整備し、新しい生産性と効率性における企業運営を求め、社内における新たなコンセンサスの育成において未来を実現することは必ず要求されるものである。

これら変化を行うことができないならば、企業において未来は存在しないかもしれない。

これらはグローバルスタンダードという世界基準における新しい世界の統一と企業の選別が存在するのである。

自社がこれら世界の先端性をけん引するためには何が必要か。それは独創性であり、深い考察と考査における製品と生産体制の構築である。これらが先端性へ到達する正しい手段なのである。

企業はその経営判断とともに未来を有するのである。